

**【解説】**

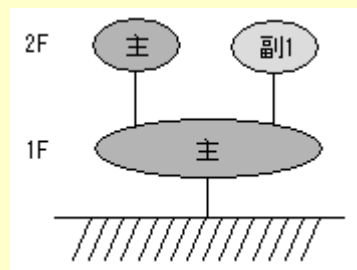
多剛床とした物件において、[15.2.3.2.1 外力分布の設定] で、Ds 算定時および保有水平耐力時の弾塑性解析で外力分布を直接入力するときは“<3>水平外力で直接入力”を選択してください。

“<2>層せん断力で直接入力”を選択したとき、直接入力した層せん断力の差より求めた水平外力を作用させますが、多剛床では、同じ系の剛床ごとに層せん断力の差より水平外力を求めるため、直接入力した層せん断力と結果の層せん断力分布が異なります。

**【例】**多剛床で“<2>層せん断力で直接入力”を選択した場合  
直接入力した層せん断力

	主剛床	副1剛床
2F	20.00	10.00
1F	50.00	0.00

※1Fに副1剛床が存在しないため“0.00”を入力。



増分解析で作用させる水平外力

	主剛床	副1剛床
2F	20.00	10.00
1F	30.00	—

※1Fの主剛床には直接入力した1Fと2Fの層せん断力の差を作用させる。

応力結果の層せん断力

	主剛床	副1剛床
2F	20.00	10.00
1F	60.00	—

※1Fに副1剛床が存在しないため、1Fの主剛床の層せん断力に、2Fの副1剛床の水平外力が含まれる。

したがって、1Fの主剛床の層せん断力が直接入力と応力結果で異なります。